

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

4 市役所 503会議室 <令和7年11月5日(木) 開催>

① フレア五日市の状況について

Q フレア五日市がオープンされたと思うが、現在、どのような状況にあるのか教えてほしい。

A 交流人口を増やすとともに、より多くの方々にあきる野市の良さを知ってもらいたいという思いから、その拠点になる場所としてフレア五日市をつくった。五日市地域には、トレイルランニング、ハイキング、ロードバイクなどをする方、生物多様性に関する学習にやってくる子どもたちなど、自然体験を求めてやってくる方々が多いにも関わらず、駅の近くに、そういう方々へのおもてなしの場、人が集まる場所が不足していると感じていた。

フレア五日市には24時間利用できる更衣室・トイレ・ロッカー、イベントができるスペースもある。できたばかりの施設なので、これから利用率が増えるよう、一層PRに力を入れていきたい。すでにイベントや講演会などで利用いただいているが、今後、企業研修への活用なども期待している。これからフレア五日市が地域の活力になると思う。

② 障がい者にやさしいまちづくりについて

Q あきる野市が、障がいの有無に関わらず、誰もが過ごしやすい街になることを願っている。

障がいを持つ方々にも、優しい環境づくりと目に見えない障がいへの理解を深める仕組みづくりを求める。

また、交通手段の改善も求める。特に、土日にも運行されるバスや、公共交通機関の利便性の向上が必要である。障がいのある方が利用できる移動支援サービスの充実を期待している。

A 学校では「誰一人取り残さない学び」を実現するために、居場所のある学校づくりをインクルーシブ教育として進めており、施設面では、車いす対応のスロープや、誰でも利用できるトイレの整備を進めている。また、「チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）」を設け、新たな学びの場を提供している。さらに、地域の理解を深めるため、特別支援教育の重要性を地域に広めている。障がいのある方々が地域で育ち、地域で働くことを見据えた取組が行われている。学校では、障がいのある方を招き、子どもたちや保護者の方々に理解を深めてもらうよう取り組んでいる。

A 五日市地区には、医療的ケアが必要な子どもを受け入れる体制が整っている保育園があり、秋川地区でも同様の対応を望む声が、これまでにもあった。人員配置などの課題があり、施設との調整が必要であるが、このニーズに応えてもらえるよう、施設に対して引き続きお願いをしていく。

③ バイクロードの整備について

Q マウンテンバイクスクールをやっているが、練習環境が乏しく、駐車場をお借りするほか、交通量の少ない道路や登山道で練習をせざるを得ない状況にある。市のいろいろな部署に掛け合っても厳しいとのことであった。そこで、耕作放棄地や河川敷、高架下にマウンテンバイクコースの整備をしてはどうか。この提案は、資源の有効活用や財源、雇用の確保、青少年の健全育成に貢献する。ぜひあきる野市でもこのような場所を作っていただけないか。

A あきる野市には、様々なバイク団体があり、地域と連携しながら活動している方々が多いと思う。市が人やお金を出す事は難しいと思うが、イベント等の主催者が場所を見つけて、スポンサーを入れて、市と協働で整備することは可能かもしれない。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

④ 移住支援についての提案

Q 自然環境の魅力に惹かれて、今年6月、あきる野市に移住した。しかし、妻が希望する保健師の職が少ないため、あきる野市と都心の二拠点生活を検討中である。また、移住支援はありがたかったが、移住者と地元の人々とのギャップを埋めるために、友人づくりのサポートがあると定着しやすくなると思う。

A 子どもが祭りに参加できる年齢になると、親同士が自然に仲良くなり、コミュニティが広がることがある。もし、コミュニティのことで困ることがあったら、改めて移住・定住担当の職員に相談すると良いと思う。

また、二拠点生活について、稼ぎは都会の方が良いという人もいるので、色々な選択肢があると思う。あきる野市にもキャリアを築ける場所があるので、その点も相談していただければと思う。

⑤ 企業誘致について

Q 市のトップの考え方一つで、街の方向性が大きく変わる。まちづくりは非常に難しい課題で、特に優良企業の誘致は簡単なことではない。企業にとって魅力的な環境を整えることができれば、手狭になった企業を誘致できる可能性もあると思う。ぜひ良い企業を誘致してほしい。

A 大企業の有無が、税収面に大きな影響を与える。あきる野市は現在、法人税がたばこ税よりも少ない状況である。市内には優良な中小企業が多いものの、法人税が伸び悩んでいる。秋川高校跡地は、大企業誘致の有力候補地であり、法人税の税収につながる企業が誘致できると良いと考えている。企業誘致に関して、引き続き努力していく。

⑥ 自然・文化的魅力の保護と発信について

Q あきる野市は自然が豊かで、多くの観光客が訪れてくれることに感謝している。しかし、この自然をどのように維持していくのかお聞きしたい。

また、五日市憲法草案や遺跡など、歴史的な資産が残されているが、それらが適切に保護されていない現状もある。あきる野市の魅力をしっかりと発信してほしい。

A あきる野市の自然資源である山や川は重要であるが、山林の維持管理が課題である。高齢化などにより、所有者による管理が難しい山林については、都の事業などで整備を行っている。こうした取組は、地域に仕事の機会を生むことにもつながっている。

川については良い状態になっていると思う。観光客のゴミ問題は少ないものの、改善が必要な部分はある。

農地の荒廃については、農業を行う人に協力を求めて改善している。

Q 移住定住だけでなくあきる野市の自然維持にも力を入れてほしいと思っている。ゴミが放置された川や、はげ山にならないための活動をしてほしいと思っている。

A 他のタウンミーティングでも、「市長が川釣りが好きなように、野花が好きな人もいる。そういった自然にも目を向けてほしい」との意見があった。頑張っていきたい。

⑦ モノレールの誘致とネーミングライツについて

Q 市長に伺いたい。最近モノレールを誘致するのぼり旗をよく見るが、五日市線に人があまり乗っていない状況で、維持費用もかかるモノレールを簡単に誘致していいのかと思っている。現在、モノレールの誘致はどのように進んでいるのか。

あきる野市市制施行30周年記念 タウンミーティング 主な懇談内容

A 多摩都市モノレールは、もともと、瑞穂町、あきる野市、八王子市を通る環状ルートとしてつながる計画があったものの、現在、瑞穂町（箱根ヶ崎駅）から先の延伸に関する動きはなく、市へのモノレールの誘致は未定である。誘致には、費用面での負担なども想定され、その課題もあって簡単には誘致できないのが現実である。（多摩地域都市モノレール等建設促進協議会の構成自治体として）声を上げる活動はしているが、進捗はない。

Q ネーミングライツされた施設がいくつかあるが、ネーミングライツをすることに対して下品に感じる。容易に名前を変えてしまうことに好意的に思わない人がいることは承知しておいてほしい。

A 意見として承る。

⑧ 企業誘致の仕組みと下水道整備の理由について

Q 秋川高校の跡地は都の土地なのに、企業が入ると法人税が市に入ってくることに対して、イメージが湧かない。

また、私は五日市で浄化槽を利用して不便なく生活しているが、市は下水道の管理に費用がかかると言いながら、浄化槽から下水道への切り替えを進めようとしている。費用をかけて下水道に切り替えようとしている理由を伺いたい。

A 秋川高校跡地について、東京都の土地であり非課税であるが、民間に売却するという形で、民間の会社の土地になる。会社が建つことで、市に法人税や固定資産税が入ってくる。

下水道の整備については、費用面、水環境の保全、公平性を求める市民の方々のご意見など様々な点を考慮し、総合的に判断して進めている。